

5年間の復興応援コンサートを経て これからも福島の皆さんと 共に歩んでいきたいです

金子みすゞの詩に自作のメロディをつけて歌う山口市出身のシンガー・ちひろさん。4、5ページで紹介した「コヨット」への参加以外にも、「コヨット」のグランジオープシンやピースフルームでのコンサート、「コヨット」のイメージソングを歌っていただくなび、「コヨット」やまぐちとの縁の深い方です。今回はちひろさんに、復興応援についてのお話を伺いました。

ちひろさんは東日本大震災以降、ボランティアとして5年間で全35回の復興応援コンサートを行いました。今回の「コヨット」は初めてのことです。「福島から来られた皆さんの中へ歌いながら、復興応援コンサートを行った5年間のことや、福島での思い出が蘇つきました。また、このような企画に参加することで、福島の方を他県にお招きして日頃の想いを吐き出してもう一つこの大切さを実感しました。震災から8年が経ちましたが、応援する側の満足度終わらないように、福島から離れたところでも現状を考えることは必要ですね。そのため、ココツトのような交流はこれからも必要だと思います」



▲「コヨット」でのちひろさんのコンサート。

金子みすゞとの出会い

「私が金子みすゞさんの詩に出会ったのは2003年のことでした。東京で作曲の仕事をしていましたが、自分の音楽の方に向性を見失つてきました。ふるたと

に帰つて自分の音楽を見つめなおしたり、それまでの音楽活動をいったん止めて山口に帰つてきました。そのとき実家で偶然手に取つたみすゞさんの詩集に私が音楽で伝えていたい心が溢れていたんです。

詩集を読んだ瞬間に「この詩に曲をつけ歌いたい」という想いがこみ上げてきました。そのタイミングで知人からコンサートのお説明があり、そこで初めてみすゞさんの歌を披露しました。みすゞさんの言葉がより伝わりやすいように、言葉のコード

CMで「まだしようか」が流れました。日本中、特に被災地で心を痛めている人がいて、先が見えない状態のときにみすゞさんの詩が全国に広がった意味を考えたときに、みすゞさんの詩を歌うことを生業にさせていただって感じる恩返しを今しなくてはいけないと思ったんです。歌手として何かできることはないかと、現地の状況を見守つてたある日、福島県郡山市のある女性からCMの注文がありました。まだ震災が起きて2、3ヶ月程の頃です。大変な被

深い悩みを抱えてるときに私のコンサートに出演、「これから頑張ろう」と元気をももいた」という声を「ただくととても嬉しいし、私自身も『ああ、がんばり』と思う、元気の循環になります」

郡山の女性との 文通をきっかけに



災地から今注文があるなんて…とずくべ驚き感激しました。通常その商品だけ発送するところを、感激のあまりそれにお手紙をつけて、注文とは別のみすゞさんのCDも一緒にお送りしました。そこからその方と文通が始まりました。その方は郡山でみすゞさんの勉強会の講師をされていて、後日受講者から「ちひろさん」の生の歌声を聴きたい」という声が上がったと聞き、私が行くべきタイミングが来たと思いま

した。それから、震災翌年の6月に復興応援コンサートが実現しました」

一番の幸せは 人と人とのふれあい



「コンサートを続けていく中で、とても印象的な出会いがありました。南相馬市に行つたときに、80歳くらいの女性が『私は仮設住宅に暮らして初めて幸せを感じたんですよ』と言わっていたんです。その



ちひろさん プロフィール

金子みすゞの詩に作曲し歌い語る“メッセージシンガー”。東日本大震災の翌年から5年間、福島県内外で復興応援コンサートを行った。KRY山口放送ラジオ「ちひろDEブレイク」は放送開始から14年目を迎える。小学校や高等学校の校歌、CMソングなども制作。